

つながる心・広がる力
JAあおぞらが贈る情報マガジン

喜楽

2014. April Vol. 7

野菜を作ろう！

～今回は春キャベツをピックアップ～

レポート

野菜づくりへの
想いを訪ねて





珍しい黒米の苗。普通の米よりもビタミンやミネラルを多く含み、白米や赤米よりも高い抗酸化機能を持っている。上村さんは育苗から収穫まですべて自分たちの手で行っている。あおぞら一丁目に出荷されているそうなのでぜひ一度ご賞味あれ。

順調に育っている上村さんのキャベツ。7～8月には収穫できるそう。その頃には、トウモロコシも食べごろになっているという。



ご自宅での和やかなひととき。暖かい日差しの中、家族の笑みがこぼれる。

多くの人とのお出会い

「野菜づくりの魅力ですからう〜ん・・・」少し悩んだ後、まゆみさんはこう続けました。

「野菜を近所の人とか友人にあげたりするんですよ。そしたらそのお礼にっ、イチゴを頂いたり、スイカを頂いたり。物々交換ってやつですか。(笑)」

「後は甚兵衛倶楽部にも出荷してはるんですけど、私たちの野菜を買ってくれた人が、美味しかったよって言ってくれたりすることですかね。中には私たちの名前のついた野菜を見ただけで買ってくれたりする方もおられるみたいで・・・。もうとてつもなく嬉しいですよ。」

「会ったこともない、話したこともない人たちが、彼らの喜ぶ顔がまゆみさんのエネルギー源になっているようだ。」



同世代の女性たちへ

「自分と同じ世代の人たちも、特に子供を育てている女の人は、みんな家庭菜園をやりたいと思ってるんじゃないですかね。でも場所が無かったり時間が無かったりで中々出来ない。中でも一番の問題は教えてくれる人がいないことです。やってみてわかったんですが、そんなに難しいことはないんです。例えば今は私の大好きな春キャベツの収穫時期ですが、虫と病気、温度に気を付ければ結構美味しいキャベツが出来ます。そういうちよつとしたコツを伝えてくれる場があれば、習ってみたい人は多いんじゃないですかね。」

「しんどいことも多いですが、私はこの子たちのためにこれからも野菜づくりを続けます。将来的には娘と一緒に野菜を作って、食べ物の大切さやモノづくりの楽しさを伝えていけたらいいなと思っています。」

夏場を除いて毎月何らかの作物が収穫できる上村さんのカレンダー。この作業をこなすのは並大抵ではないが、努力した分喜びも大きいのだそう。



上村さんちのカレンダー	
1月	キャベツ、ほうれん草定植 だんごん、ほうれん草収穫
2月	にんじん定植 ブロッコリー、オリーブ 高菜収穫
3月	じゃがいも、里芋、大根 チンゲン菜など定植 春菜収穫
4月	黒米、トマト、ナス定植
5月	かぼちゃ、スイカ、キュウリ 落花生、ゴーヤ、オクラ定植 さつまいも、梅収穫
6月	さつまいも定植 じゃがいも収穫
7月	梅づくり、ブロッコリー、 キャベツ定植
8月	大根、キュウリ、 にんじん定植
9月	白菜、大根菜、高菜、玉ねぎ、 ラッキョウ、ほうれん草定植
10月	にんじん定植 大根、キャベツ、キュウリ、 ブロッコリー収穫
11月	キャベツ定植 白菜、オリーブ、大根収穫
12月	キャベツ定植 ブロッコリー収穫



誰でもはじめられる

野菜づくりの魅力



気軽にはじめられそうでなかなかはじめられないのが「家庭菜園」
今回からは町内にお住いで、野菜づくりを楽しんでいる女性をご紹介します。
野菜づくりの魅力やご苦労などを取材してきました。
これを読めば、アナタも明日から野菜づくりをスタートできます！！

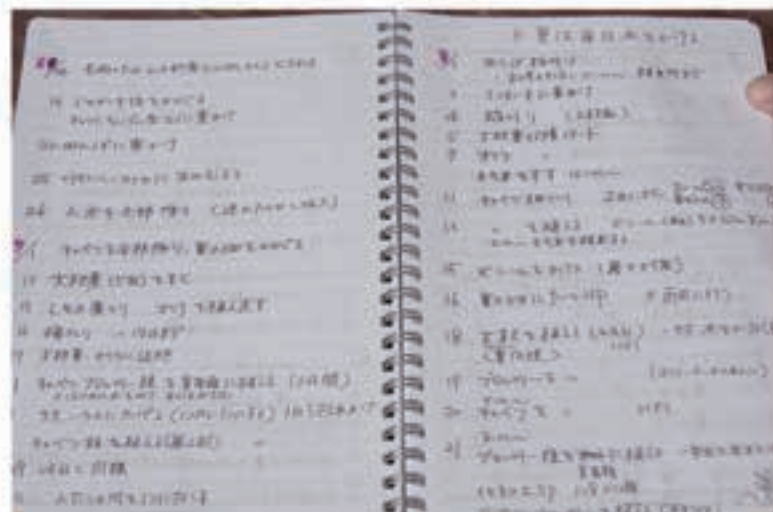
スブの素人だったワタシ

「主人と結婚するまでは、まったく農業をしたことがなかったんです。そう微笑みながら話してくれたのが、今回取材させて頂いた、上村勝幸さんの奥様、まゆみさんだ。友人の紹介で15歳年上の勝幸さんと結婚したのが5年前。大崎町からこの有明町へ嫁いできた。実はまゆみさんのご実家も農家だったのだが、幼いころから家業を手伝ったことは無かったそう。」「両親も手伝えとは言いませんでした。」「農業に携わることのなかったまゆみさんは、学校を卒業後も接客業など、およそ農業とは縁遠い生活を送っていた。だが、勝幸さんと出会ったまゆみさんに、もう一つ、大きな出会いが待っていた。」

美代子さんとの出会い

勝幸さんのお母さんの美代子さんは、知る人ぞ知る野菜づくりの名人だったのだ。嫁いできたまゆみさんは当然美代子さんの仕事を手伝うようになる。」「自分でもビックリするくらいスナリ入っていきましてね。抵抗感とか全くありませんでした。」
農作業を嫌う女性が多いが、まゆみさんには当てはまらなかった。最初は美代子さんの見よう見真似、言われたことを精いっぱいこなすだけだったが、持ち前の向学心が徐々に頭をもたげてきた。
「もっと勉強して、お義母さんを手伝ってあげられるようになりたい。」
そう考えたまゆみさんは、少しずつ大切なことをノートに書き留めるようになっていった。

ビッシリと作業内容や重要ポイントが書き留められたまゆみさんのノート。今も作業があった日は欠かさず記入しているという。



新しい命との出会い

そんなまゆみさんと勝幸さんに2年前、また一つ新しい、そして嬉しい出会いがやってきた。長女・彩華（あやか）ちゃんの誕生だ。スクスクと育つ我が子を見て、まゆみさんは想いを新たにしたいという。
「こういう時代じゃないですか。だからせめて自分たちで作れるものは自分たちで作ろうと。この子には出来るだけ安心・安全な食べ物を与えてあげたいと思いましたね。この子のためなら何でも出来るって言うか。」



がんばれ!!



鹿児島ユナイテッドFC

KAGOSHIMA UNITED FC



JAあおぞらは、鹿児島ユナイテッドFCを応援しています。



野菜

莖菜類・アブラナ科

原産地：地中海・大西洋沿岸地方

キヤブツ

育てやすい健康野菜

古代ギリシャ、ローマ時代から食べられていた最古の野菜の一つ。当時は野菜としてより、胃腸の調子を整える薬草・健康食として食べられていました。日本では明治以降品種改良が進み、1980年代にはダイコンと並ぶ生産量となりました。

●栽培のポイント
涼しい気候を好みますが、栽培可能な温度範囲は5〜25度で耐暑・耐寒性があり、少し手間をかければ、南から北まで、各時期に栽培することができ、有明町でも数多く栽培されています。

重要なことは、やはりよい苗を作ることに、セルトレーやポリポットで、育苗専用のピートモスを多めに含んだ培土を使用します。間引き、灌水などに留意しますが、とくに夏まきでは、雨が多く、気温が上昇してくると軟腐病が発生しやすいので注意が必要で、小苗のときから害虫の被害に遭いやすいので、つねに観察を怠らず、発生初期に防除剤を散布し、防鳥網や光を反射するテグスの展張などの対策を講じましょう。

オススメの品種

『しずはま1号』

高温肥大性の優れた葉深系に春系を一部組入れた初夏〜夏まき用の秋どり種。春まきもできる。萎黄病抵抗性を持ち、黒腐病にも強く、耐暑性もあって育苗・栽培は比較的カンタン。大きくなりやすく、収量が多いのもうれしいポイント。家庭菜園用にも最適で、玉揃いがよく、定植後60〜65日で1.2〜1.3kg、70日余りで1.5kg程度にまで成長する。葉色は明るい緑色、葉の波打ちは少ないが、葉質は柔らかく、食味が大変よい上質種。



JAは協同組合だから組合員しか利用できない、JAだから農家しか利用できないと考えている人は意外に多いようです。実際のところ、農家以外の方にとってはまだまだなじみの薄いところかも知れません。JAは、農家でなくても、組合員の方でなくても、サラリーマンの方、主婦の方、若い方まで、どなたでもお気軽にご利用頂ける場所です。これからJAあおぞらでは、地域の皆さんとの結びつきを大切にしながら、地域の協同組合として、皆さんの夢や幸せ作りのお手伝いさせていただきます。

JAは組合員でなくても、農業を営んでいない方でも誰でも気軽に安心してご利用頂けます。

※野菜の一部について、出荷として頂くことが条件となります。

発行元

あおぞら農業協同組合 企画管理部
〒899-7402
志布志市有明町野井倉1373-1
TEL 099-474-1211
FAX 099-474-1218

